

2026年4月10日

2026年度先進ゲノム支援公募説明会

支援の全体的な説明

国立遺伝学研究所

森宙史

Hiroshi Mori



文部科学省科学研究費助成事業 学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」
先進ゲノム解析研究推進プラットフォーム

先進ゲノム支援 **第2期**

公募要項について（方針等）

<https://www.genome-sci.jp/guidance>

2

使命：最先端のゲノム解析及び情報解析技術を開発・整備し、多様な科研費課題に提供して支援することにより、我が国のゲノム科学ひいては生命科学のピーク作りとすそ野拡大を進めること。本公募はそのような支援に相応しい**科研費課題**を募ります。

対象課題

2026年度に科研費（科研費補助金・基金）の助成を受けている研究課題
（2026年度新規・継続課題）

申請資格

研究代表者・研究分担者のどちらでも申請可能

優先採択

女性研究者・若手研究者・ゲノム科学研究を新たに開始する研究者
同程度の審査結果の場合、これらの方を優先

費用負担

支援経費は先進ゲノム支援が負担
ただし多くの課題を支援するため、一部実費負担をお願いする場合があります

 募集期間：2026年4月14日（火）～2026年5月12日（火）正午まで

支援できる内容

<https://www.genome-sci.jp/design>

3



新規ゲノム解析

動物・植物・微生物



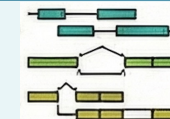
変異解析

SNP・CNV・SV・ハプロタイプ



修飾/エピゲノム解析

ChIP-seq・メチル化・ATAC-seq
・Hi-C



RNA解析

RNA-seq・Iso-seq等



メタ・環境・ホログenom 解析

MAG解析・long readメタゲノム



シングルセル解析

scRNA-seq等（モデル生物他）



空間的オミックス解析

空間トランスクリプトーム等



情報解析

バイオインフォマティクス支援

主要支援解析機器

ショートリード

Illumina NovaSeq X/6000・
NextSeq 2000
MGI T7/G400・Element
AVITIなど

ロングリード

PacBio Sequel IIe/Revio
Nanopore
MinION/GridION/
PromethIONなど

シングルセル

10X Genomics Chromium/iX
Standard BioTools C1 System
など

空間オミックス

10X Visium HD/Xenium
PhenoCycler・CosMx・
Pixelgen・AVITI24 Teton・
Bruker CellScape・Curio
Trekker・Olink Revealなど

支援技術 × 対象区分

<https://www.genome-sci.jp/design>

4

支援技術区分	ヒト	動物1 (マウス)	動物2 (非マウス)	植物	微生物	情報
新規ゲノム解析						
変異解析						
修飾 / エピゲノム解析						
RNA 解析						
メタ・環境・ホロゲノム解析						
シングルセル解析						
空間的オミックス解析						
情報解析						

支援対象課題の選定

💡 選定は「先進ゲノム支援」領域外の専門家から構成される支援審査委員会が、対象区分と主要技術区分の組み合わせごとに実施します

- ① 科研費課題の当初計画と密接に関連しているか
- ② 科研費課題そのものの支援ではなく、支援により当初計画を上回る重要な研究成果が期待できるか
- ③ 受託解析サービス等の利用ではなく、本支援活動による支援が必要であるか
- ④ ゲノム科学としての先進性があるか
- ⑤ 技術的および必要経費面で支援が実行可能か

審査プロセス



申請書について

 申請書様式 : <https://www.genome-sci.jp/guidance> よりWordファイルをダウンロードしてご記入ください

基本記載事項

科研費課題の研究目的（概要）

大元の計画調書の内容で可

支援希望内容

技術・サンプル数等を具体的に

科研費課題の研究目的

研究計画調書の内容そのまま

研究業績

関連論文等

支援を希望する理由等（①～⑥の各項目）

- ① 科研費課題の当初計画との関連と支援を希望する理由
- ② 支援により期待できる研究の発展およびそのための研究計画・研究体制
- ③ 受託解析サービス等ではなく「先進ゲノム支援」活動による支援を希望する具体的な理由
- ④ ゲノム科学研究としての先進性と国内外の研究状況
- ⑤ 材料等の準備状況、支援結果活用のための準備状況
- ⑥ 過去の「先進ゲノム支援」による支援の有無（第1期・第2期）

Wordファイルと一緒にダウンロードできるExcelファイルに、web申請システムで入力が必要な項目が書かれているので、そちらも申請作業前に目を通しておいてください。

支援により得られたデータの公開・共有

<https://www.genome-sci.jp/guidance>

7

個人識別符号を含まないデータ

支援依頼者に提供と同時にDDBJ/DRAに登録

論文発表後：直ちに公開

未発表の場合：支援終了後原則1年以内に公開
(手続きにより延長可能)


対応DB：DRA (次世代シーケンサーデータ全般)
GEA (Genomic Expression Archive)

個人識別符号に該当するゲノムデータ

適切な個人情報保護の仕組みのもとで共有

審査承認済みの研究者間で共有
(論文発表後など一定期間後)

対応DB：NBDCヒトデータベース

 NBDCヒトデータベースに生データを登録できないヒト試料を使用した研究は支援対象外です。
試料の分譲を受ける際に許諾条件を必ず確認してください。

ヒト由来試料を扱う研究の倫理関連について

<https://www.genome-sci.jp/ethic>

8

改正個人情報保護法（2022年4月施行）・改正研究倫理指針に基づく適切な倫理対応が必要です

ヒト由来試料を扱う場合の提出必要書類

- | | | |
|-----|--|----|
| (1) | 倫理関連書類チェックシート
支援Webサイトからダウンロード (Word形式) | 必須 |
| (2) | 倫理審査申請書・研究実施計画書
所属機関のフォーマットで提出 | 必須 |
| (3) | インフォームドコンセント関連書類
説明文書・同意文書・同意撤回文書 (所属機関フォーマット) | 必須 |
| (4) | 倫理審査委員会からの承認書・機関の長からの許可書 | 必須 |

※ 機関の長からの実施許可を得られていない場合は、
1 および倫理審査委員会に提出する予定の書類 2, 3 をご用意ください。

ABS (Access and Benefit Sharing) について

<https://www.genome-sci.jp/ethic>

9

外国由来の解析試料は、生物多様性条約および名古屋議定書に基づく由来国の法令に則って取得する必要があります

✓ ABS対応が不要なケース (原則)

- ✓ 条約発効日（1993年12月29日）以前から、提供国国外で「研究」に利用されている試料
- ✓ 条約発効日前から「研究用」として日本に持ち込まれていた試料やその子孫

⚠ ABS対応が必要なケース

→ ABS対応（確認・調査）が必要

1993年12月29日以降に外国から取得した遺伝資源（動物・植物・微生物・その抽出物含む）

「日本で生まれたもの」 ≠ 「日本由来」 その遺伝資源の大元がいつ日本に入ってきたかが重要です！

- 1 申請システムで、各支援依頼内容の入力時にABSに関する設問に回答いただきます
- 2 申請時にABS対応が完了していても構いません。採択された場合、支援開始はABS対策完了後となります
- 3 申請前の確認も可能です。遺伝研ABS支援室にお問い合わせください：
https://idenshigen.jp/contactus/advice_request

購入元・分与元への問い合わせや過去の研究事例の検索等は申請者ご自身で調査していただくことになります。

支援申請にあたりご留意頂きたい点 (1/2)

<https://www.genome-sci.jp/guidance>

10

過大な申請は避けてください

支援活動に配分された経費には限りがあります。依頼内容の一部変更や、消耗品などの一部負担をお願いすることがあります。

シングルセル・空間オミックス解析は特に高額であるため経費を厳しく査定します

カスタムパネルの作成費など、必要最低限を超える解析については経費の一部負担をお願いすることがあります。

17 単年度での実施が前提になります

支援活動は年度単位です。採択決定（8月）後、12月までに試料を提供ください。
倫理委員会の承認が必要な場合は10月末までに承認が必要です。

DNA/RNA試料の調製は依頼者側で実施いただきます

シーケンシングライブラリ作製を含む試料準備は原則として依頼者側で実施。
量的・質的に不向きな場合は中止・再調製等を担当グループと協議します。

メタデータの提出が必須です

試料を送付する際に、データ登録に必要なサンプルのメタデータも提出してください。
メタデータの提出がない場合は支援できません。

支援申請にあたりご留意頂きたい点 (2/2)

<https://www.genome-sci.jp/guidance>

11

支援は共同作業です（業者委託とは異なります）

支援依頼者と支援担当者の研究者間の共同作業として進めます。具体的な進め方は担当者との協議により決定します。

情報解析支援は共同研究の形をお願いします

情報解析は多大な手間がかかります。情報解析支援メンバーとの支援は共同研究の形をお願いします。情報解析人材育成が特に重要視されています。

論文発表の際は必ずPAGSを謝辞に記載してください

「先進ゲノム支援」の英語表記：JSPS KAKENHI Grant Number 22H04925 (PAGS)
支援担当者の貢献に応じて共著者とするなど、適切な対応をお願いします。

成果は速やかに論文発表をお願いします

支援結果を含む論文等の発表後は、速やかに支援事務局へご連絡ください。
年2回の成果報告書の提出にもご協力をお願いします。

免責事項

支援活動は最善を尽くしますが、不慮の事故を含め成功を保証するものではありません。当初期待した質・レベルのデータが得られない場合もあります。

情報解析支援のスタンス：「共同研究」

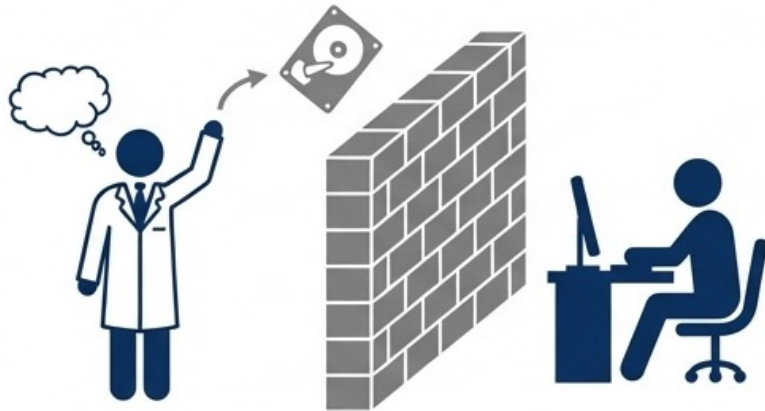
<https://www.genome-sci.jp/guidance>

12

情報解析には多大な手間と専門性が伴います。単なる作業代行ではなく、共同研究としての実施と人材育成を目的とした支援です。

NG

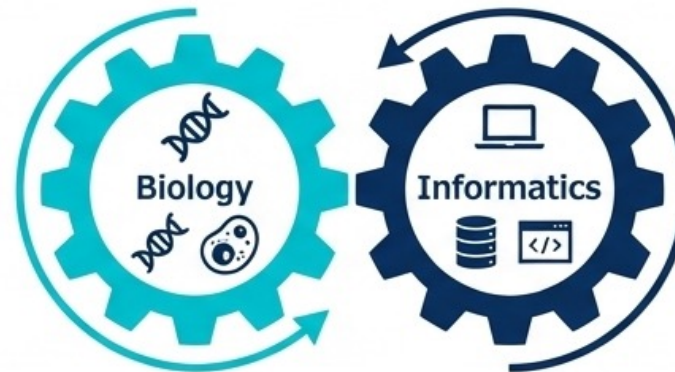
単なる下請け・作業代行（対象外）



個々の研究を対象とした、データベース構築やWebインターフェース開発等のシステム開発は支援対象外です。

OK

共同研究・人材育成（支援対象）



将来的に自ら情報解析を実施できるようになるための支援です。

申請のポイント (1/2)

<https://www.genome-sci.jp/point>
https://www.genome-sci.jp/faq_public

13

⚡ 支援課題は必ず科研費課題に基づき、かつ「当初計画を超える発展」をもたらすものであること

✗ NG例：科研費課題との乖離

科研費課題：
「新たに単離した細菌のゲノム解読を基盤とした研究」



支援申請：
「真核細胞のChIP-seq & RNA-seqによるエンハンサー解析」
→ 課題から大きく逸脱。支援不可。

⚠ 注意例：当初計画そのものの支援

例：「マウスのRNA-seqを20サンプル解析する計画だったが、10サンプルは自分で、残り10サンプルを先進ゲノム支援で解析してほしい」
→ 計画そのものであり支援不可。10サンプル追加する科学的意義が何かを明確に記述してください。

✓ OK例：当初計画を上回る発展が明確

例：大型真核生物の特定遺伝子の機能研究で、ゲノム情報が未公開。ゲノムを解読して研究のインパクトを上げたい。
→ 単にゲノムを解読するだけでなく、解読結果をどのように活用し科研費課題を発展させるのかを明確に記述してください。

01

ゲノムサイズ・倍数性を事前に調査

新規ゲノム解析などで、対象生物種のゲノムサイズや倍数性などは事前に解析し、可能な限り具体的に記述してください。不明な場合は近縁種の情報で代替するなど検討を。

02

サンプル数・シーケンス量・ライブラリ種類の具体的記載

参考となる論文を参照するなどして、希望するサンプル数やシーケンス量、ライブラリの種類等の具体数を記述してください。

03

サンプル準備状況を明確に

サンプルは支援期間中に準備可能か、解析に資するサンプルは技術的に調整可能か、など事前の準備状況を明確に記述してください。

04

科研費課題を発展させる具体的な計画を

ゲノム解読した結果得られた情報をどのように活用し、科研費課題を発展させるのかを明確に記述してください。情報の活用計画が具体的であることが重要です。

2026年度のスケジュール

<https://www.genome-sci.jp/guidance>

15

4月14日～ 5月12日正午	 支援申請期間 https://www.genome-sci.jp/ から申請可能
7月上旬	 書面審査結果通知 メールにて審査結果をお知らせします
7月中旬予定	 技術ヒアリング 支援内容の詳細の聞き取りと協議
8月上旬予定	 採択決定 審査委員会による最終決定
9月上旬	 支援開始 8月下旬にオリエンテーション（申請者または実務担当者の出席必須）
10月末まで	 ヒト遺伝子研究倫理承認 ヒト遺伝子解析研究は10月末までに倫理委員会の承認が必要
12月まで	 試料提供期限 採択決定後12月末までに試料を提供ください（これを過ぎると原則支援不可）

Web申請システムの流れ

<https://www.genome-sci.jp/guidance>

16

STEP 01 ~ 06 (事前準備・登録)

01

公募要項の確認・同意

公募要項・申請のポイント・FAQ・倫理・ABSを確認

+

02

研究者登録

新規登録 or 既存IDで継続利用 (2016年度～のIDはそのまま使用可)

+

03

本人確認メールの受信・URLクリック

URLの有効期間は72時間。迷惑メールフォルダも確認

+

04

登録完了・パスワード通知

パスワードを忘れた場合は再発行可能

+

05

申請書様式のダウンロード・作成

2026年度様式 (Word) + web入力項目一覧 (Excel) を事前準備

+

06

倫理関連書類の準備 (該当者)

ヒト由来試料を用いる場合はチェックシート・倫理資料が必須

ヒト試料のみ

STEP 07 ~ 12 (作成・入力・提出)

07

支援申請書の作成 (PDF保存)

チェックシート・倫理審査委員会資料もPDF形式で用意

+

08

申請システムにログイン

HPトップ「依頼者マイページ」からもログイン可。途中保存OK

+

09

研究費情報・希望支援技術の入力

科研費課題番号を入力→一部自動取得。対象区分・主要技術区分を選択

+

10

支援内容の詳細入力・ABS設問への回答

支援項目・試料の由来・シーケンス量等を詳細に入力

+

11

申請書・倫理資料のアップロード

支援申請書PDF、倫理関連書類 (PDF) をアップロード

+

12

申請完了・受付確認メール受信

公募期間中 (5/12正午まで) は何度でも修正可能

申請完了

申請期間中は何度でも修正可能 (締切: 2026年5月12日 火曜日 正午)

2016年度以降のIDをお持ちの方は再登録不要・継続利用してください